

## 五つの力ごとに代表する県の5事業から得られた知見

五つの力	何が大事か	そのための工夫
<b>体感する力</b> 自然のすばらしさや環境の大切さを感じ取る力	○興味・関心を高める。 ○一過性で終わらせない。	○見る・触れる・手を動かす（実験、工作等）など、興味を引きながら楽しめる要素を取り入れ、関心を高める。 ○自然にふれ合うコツを学んでもらう（虫への抵抗感をなくすことや、何が危険かを知ってもらうことなど）。 ○学習の最後に振り返りの機会を設けることで、参加者同士で思い出を共有し、記憶に残る体験とする。 ○日常的に見る・使用する物を工作等で作って持ち帰る、親子で参加し保護者にも体験の方法を学んでもらうことにより、家庭での振り返りや継続的な体験につなげる。
<b>理解する力</b> 私たちの活動が環境に影響を与えていることを、自分のこととして捉える力	○単なる知識でなく、自分事として捉える。	○見る・触れる・手を動かす（実験、工作等）ことにより、興味を引きながら環境問題の仕組みをわかりやすく伝える。 ○身近な環境問題に関する問いかけやクイズを交えることで、自分ごととして理解する。 ○自分にできること（エコアクション）は何かと問いかけて発言を促すとともに、他の学習者と議論し、共有することにより、多くのエコアクションがあることに気付き、行動意欲や更なる学習意欲につなげる。
<b>探究する力</b> 環境問題を多面的に考察し、その本質や解決策を見つけ出す力	○知識・経験を高める。 ○新たな課題を発見し、自ら深掘りする力を身に付ける。	○環境問題について、学習者が主体となって議論しながら調査・研究することにより、知識・経験を主体的に高める。 ○成果を披露する発表会を開催することで、調査・研究を振り返り新たな気づきや課題の発見につなげるとともに、継続的な探究の意欲を高める。
<b>活用する力</b> 環境を守るために必要な知識やスキルを自ら身に付け、活かす力	○学びを実践につなげる力を身に付ける。	○具体的、実践的な課題について、課題を有する企業等の現場調査や担当者とのディスカッションを交えながら検討することにより、追求すべきことや制約、実現性など様々な視点から物事を考える力や、これまで習得した知識やスキルを社会で活用する力を養う。 ○検討の成果について、企業等から評価を受けることなどにより、取組の成果を実感できるようにする。
<b>共働する力</b> 共に未来を創り出すために、みんなとつながる力	○様々な主体とつながり、学習・活動の幅を広げる。	○共働しようとする主体が、事前にヒアリングを綿密に行うなどにより、それぞれのニーズやノウハウを詳細に把握するとともに、信頼関係を構築する。
<b>（共通）</b>	○より効果的な学習・活動に向け、事後に成果や課題の抽出を行い、改善を図る。	